

平成23年度第2回花巻市地域包括支援センター運営協議会議事録

- 1 日 時 平成24年2月17日（金）午後3時5分～午後3時50分
- 2 場 所 花巻市文化会館 第5・6会議室
- 3 配布資料 別添のとおり
- 4 出席者 委員 大芦洋悦、三浦良雄、菊池光市、狩野隆史、橋本純子、
高橋照幸、寒川尚周
（欠席：川村美博、鈴木陽子、小早川隆文、若松知子、
鈴木芳信、朝倉千里、藤本莞爾、松岡静久）
- 事務局 花巻市生活福祉部長寿福祉課長 内館 桂
長寿福祉課長補佐 高橋 和廣
同 高齢福祉係長 駿河 ひとみ
同 介護保険係長 阿部 勇悦
同 上席主任 似内 泉
同 副主任 八重樫 直子
- 健康こども部健康づくり課
成人保健係主任主査兼係長 佐藤 陽子
- 石鳥谷総合支所市民サービス課
生活福祉係主任主査兼係長 佐々木 和則
- 東和総合支所市民サービス課
生活福祉係長 岡田 珠枝

5 会議内容は次のとおりである。

- 開 会 高橋課長補佐
配布資料の確認をした。
- あいさつ 内館課長
現在、花巻市高齢者保健福祉計画・第5期介護保険計画の策定が進められており、平成24年度から、地域包括支援センターの受託先が花巻市社会福祉協議会に一元化されることになっている。地域包括支援センターには、地域に根付いた拠点施設になってほしい。
- 議 長 花巻市地域包括支援センター運営協議会設置要綱第4条第2項に基づき、会長が議長となる。
- 報 告 (1) 花巻市高齢者保健福祉計画・第5期介護保険計画【花巻市高齢者いきいきプラン（2012～2014）】（案）について
(2) 花巻市地域包括支援センターの上半期運営実績について
(3) 花巻市地域包括支援センターの来年度に向けた取り組みについて
（一括して内館長寿福祉課長が説明）

質疑応答

狩野委員

地域包括支援センターを社協が引き受けることはいいことだ。要望として、これまでに培ってきたものがあるので、引き継ぎを密に行っていただきたい。引き継ぎについてはこちらも協力していく。

高橋委員

今、利用している人が不安にならないようにしたい。行きなれたところから、別の場所に移ることに、利用者は戸惑いがあるようだ。また、地域の中で、一体に取り組んでいたことはどうなるのか。引き続き連携していかないと、地域の方が困ることになる。社協が地域福祉を進めることと地域包括支援センターを運営することは、目的が同じ。市民の皆さんから評価を得られるよう、きちっと引き継ぎし、利用者を安心させたい。

菊池委員

現場では、家族から「なぜ変わらなければいけないのか」と言われることがある。こちらとしては、地域包括支援センターが市の事業であることを理解してもらっている。また、包括の部会では、成年後見の対応が問題になっている。例えば、担当者が裁判所まで行かなければいけないのか。難しいケースについての事務は、委託元で行うことができないのか。現場で対応しなければいけないのであれば、現場がひっばくしてしまい、担当者がつぶされるようなことになってしまうので、市担当者と細かい部分の打合せが必要と思われる。

内館課長

権利擁護については市も係わり合いがあるので、困難な事例については市につなげてほしい。包括は地域の皆さんと関わるように、もっと外に出て何をするところなのか、自分達の活動をPRしてほしい。介護予防を地域にシフトしていきたい。包括が前面に出て、サービス事業者や保健推進員、民生委員などと協力することが大切だ。どこまで地域でやれるか話し合いをし、行政のおんぶにだっこではなく協調関係で、介護予防の拠点として、地域の要になってほしい。

議長

医療の立場から何かありませんか。

三浦委員

特にありません。

高橋委員

介護予防教室を開催して、参加者から「このような教室をしていることを知らなかった」「参加して良かった」など意見をいただく。特に、冬期間は体を動かすことや外出する機会が少ない。福祉の分野から、このようなメニューの提供する場合は働きかけが大切だ。また、事業はやっているが、やった結果を市民にお知らせしていかなければいけないことが課題であり、今後力を入れていきたいところだ。3月には介護者交流会を開催する予定で、すでに定員を超える応募があった。ただ、来て欲しいだけではダメ。今回は、ケアマネを通じて呼びかけを行ったことが良かった。広報活動や声かけ活動を大切にしていきたい。

橋本委員

利用者の立場から。包括の認知度が50%なのに、一元化をしていいのかという思いがあった。ただ、社協が目指すところが包括と同じなのであれば、良いのかなと思った。認知度を上げながら、介護予防の支援に力を入れて欲しい。ところで、職員は、現在の職員が移行するのか。

内館課長 社協があらたに人材の確保を行う。また、希望があれば、現在の法人から包括へ異動する場合もある。

橋本委員 今のままの一元化であればいいのだが。現状がくずれてゆくことが心配だ。

議長 今の話は要望として聞く。理解には個人的な差があり、対応はケースバイケース。不足した部分は、どこかで補う必要がある。

内館課長 包括の運営は、市の問題だ。個々の問題について、市がしっかり指導・助言していくことが必要。市民の皆さんが心配しないようにしていく。

大芦委員 いきいきプランにもあるように、包括は地域包括ケアシステムの中心。県や県南振興局では研修を実施し、包括の機能強化に努めている。プランナーや専門の3職が継続的に本来の役割ができるように支援していきたい。

議長 ほかに質問などがなければ、事務局に返す。

高橋課長補佐 本運営協議会の今年度の会議は、本日で終了となります。まだ、任期はあるが、委員の皆さんの職務も終了となります。ここで寒川会長から、あいさつをいただきたい。

会長 介護保険事業が始まって12年間、介護保険運営協議会の会長を、また包括が設立されてからは地域包括支援センター運営協議会の会長を務めてきました。12年間で飛躍的に介護の需要は伸びたが、問題もあった。施設においては、要介護5ではなく要介護6か7でも良い人がいたと思う。あらためるところはあらため、進んでいかなければならない。花巻でも工夫をしながら、不備な点を補っていくことが必要だ。皆さんのこれまでのご協力に感謝し、退任のあいさつとさせていただきます。

6 閉 会 15:50